

中小企業景況レポート vol.78

2024.1~3

業況判断D I 1月~3月は6.8と2期連続でプラス

【2024年1月~3月期の業況判断D I】

今回調査期間における全業種総合の業況判断D Iは前回調査比で2.0ポイント上昇し6.8となりました。業種別では不動産業以外の5業種において業況判断D Iがプラスとなっており、景況感が高めで推移しています。

【2024年4月~6月期の予想業況判断D I】

次回調査期間における全業種総合の予想業況判断D Iは今回調査比で3.5ポイント低下し、3.3の見込みとなっています。

業種名	時期	2023年 10月~12月		2024年 1月~3月		2024年 4月~6月 (予想)
全業種総合		☁ 4.8	➡ 2.0	☁ 6.8	↘ Δ3.5	☁ 3.3
製造業		☀☁ 17.5	➡ 0.0	☀☁ 17.5	↘ Δ7.0	☀☁ 10.5
卸売業		☀☁ 13.6	➡ 0.1	☀☁ 13.7	↘ Δ4.7	☁ 9.0
小売業		☁ 0.0	➡ 2.6	☁ 2.6	➡ 2.8	☁ 5.4
サービス業		☁ 4.4	↘ Δ1.5	☁ 2.9	↘ Δ4.4	☁ Δ1.5
建設業		☁ 3.2	➡ 7.7	☀☁ 10.9	↘ Δ2.9	☁ 8.0
不動産業		☂ Δ17.6	➡ 1.0	☂ Δ16.6	↘ Δ5.6	☂ Δ22.2

景況
天気図
の目安

D I

好調 ←

☀
30
以上

☁
10以上
30未満

☁
0以上
10未満

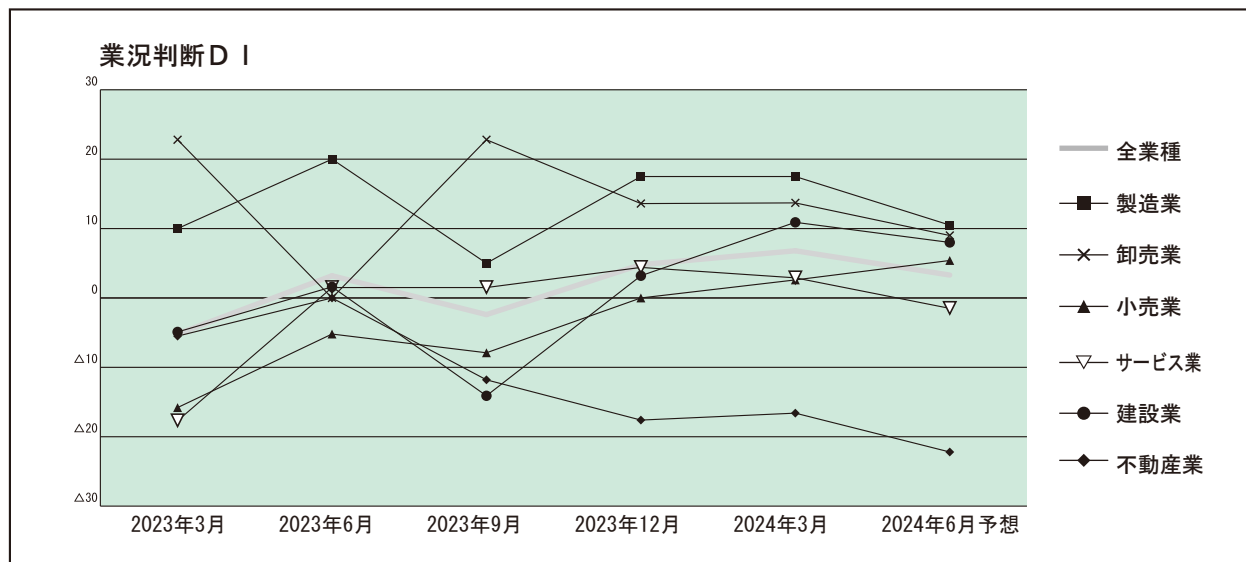
☁
Δ10以上
0未満

☂
Δ30以上
Δ10未満

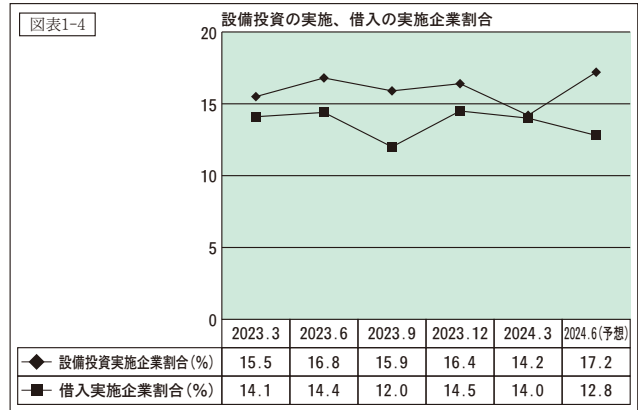
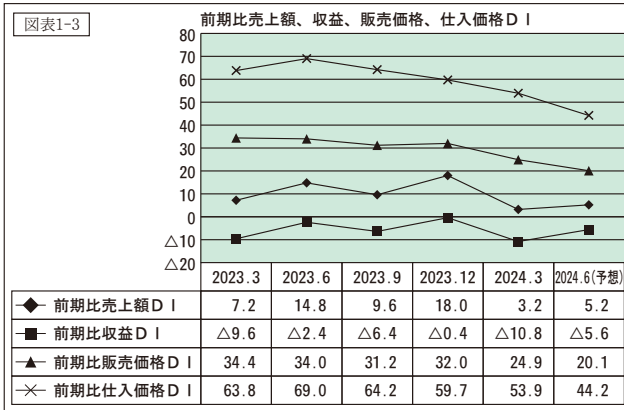
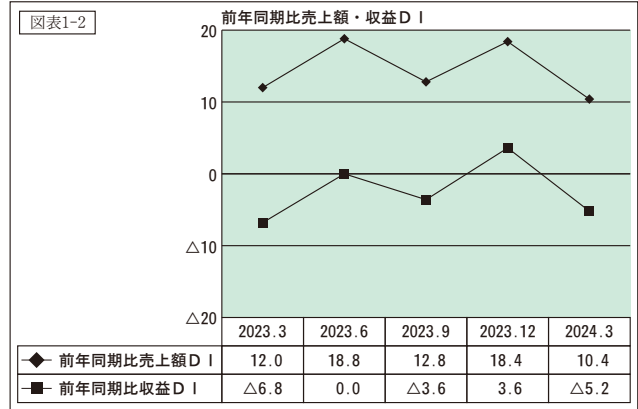
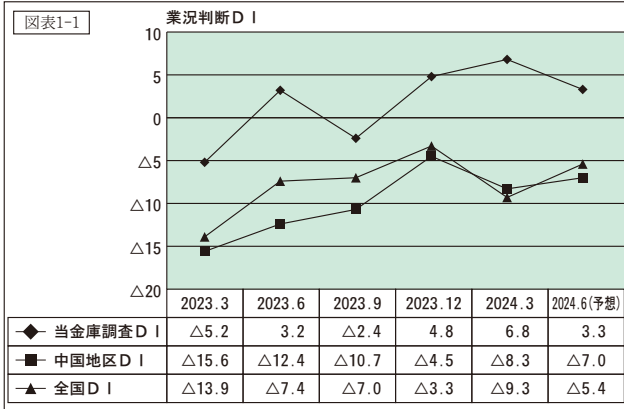
☂
Δ30
未満

☂
☔

→ 低調



全業種総合



景況 ～業況判断D Iは6.8で2期連続のプラス～

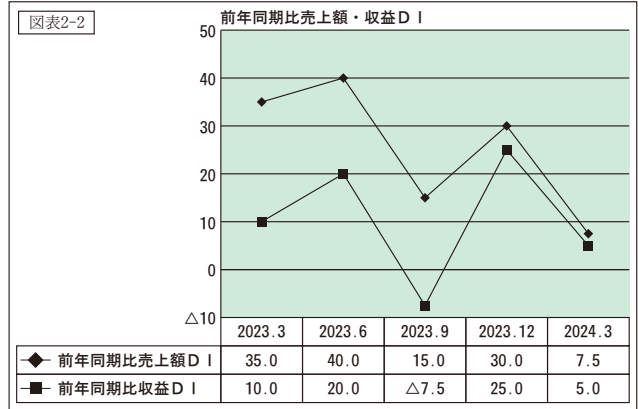
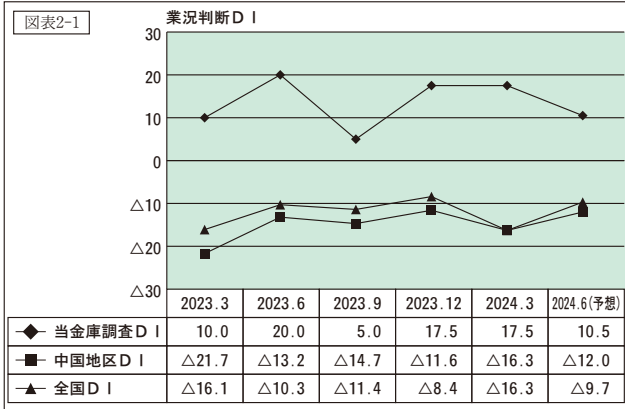
今期の業況判断D Iは全業種総合で4.8→6.8と前回調査比で**2.0ポイント上昇**し、2期連続で業況判断D Iがプラスとなりました。6業種中5業種において業況判断D Iがプラスとなっており、全体的に景況感は高めで推移しています。中国地区D I（△8.3）、全国D I（△9.3）と比較しても当金庫営業エリアにおける景況感が高めに推移しています。次回調査期間（2024年4月～6月）の予想業況判断D Iは6.8→3.3と、今回調査比で**3.5ポイント低下する見込み**となっているものの、業況判断D I自体はプラスの見込みとなっています（図表1-1）。

前年同期比売上額D Iは10.4、同収益D Iは△5.2となっています。1年前と比較して増収減益となっており、物価高騰による売上増加効果と利益圧迫効果の双方の影響が出ているものと思われます（図表1-2）。

今回調査期間で設備投資を実施した企業の割合は14.2%となり、前回調査比2.2ポイントの低下。借入を実施した企業の割合は14.0%となり、前回調査比0.5ポイントの低下となりました。次回調査期間に設備投資を予定している企業の割合は17.2%であり、今回調査期間に設備投資を実施した企業の割合と比較して3.0ポイントの上昇となっています。また、次回調査期間に借入を予定している企業の割合は12.8%であり、今回調査期間に借入を実施した企業の割合と比較して1.2ポイントの低下となっています（図表1-4）。

また、設備状況の見通しが「やや不足」「不足」と判断している企業のうち、設備投資をおこなわないと回答している企業が58.3%（前回調査比+8.3ポイント）となっており、半数以上の企業が設備投資を控える意向であることが窺えます。

製造業



景況 ～今期変わらず 次回調査期間は低下の見込み～

今期の業況判断D Iは17.5→17.5と前回調査と同じ結果となりました。また、次回調査期間の予想業況判断D Iは17.5→10.5と7.0ポイント低下する見込みとなっています(図表2-1)。

今回調査期間中に日本銀行より発表された岡山県金融経済月報によると、県内主要製造業の生産は「海外経済の回復ペース鈍化の影響を受けつつも、供給制約の影響が和らぐもとで、持ち直している」との判断となっています。生産種別で個別に確認すると輸送用機械、鉄鋼において回復、持ち直しとなっています。

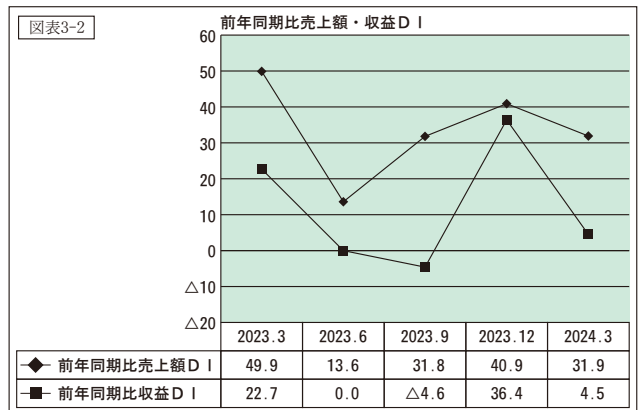
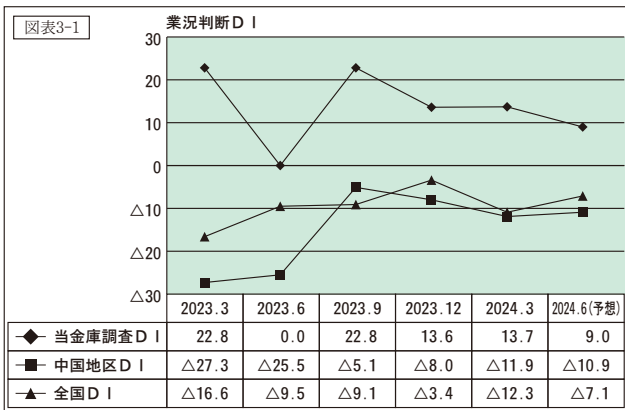
経営上の問題点としては「人手不足」と「原材料高」と回答する企業が最も多くなっており、それらに対応するよう当面の重点経営施策においても「経費を節減する」、「人材を確保する」との回答が多くなっています。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

経営上の問題点	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	人手不足	37.5%	売上の停滞・減少	25.0%	同業者間の競争の激化	22.5%
	原材料高	37.5%			利幅の縮小	22.5%
当面の重点経営施策	販路を広げる	50.0%	経費を節減する	37.5%	人材を確保する	32.5%

卸売業



景況 ～今期上昇 次回調査期間は低下の見込み～

今期の業況判断D Iは13.6→13.7と前回調査比0.1ポイントの上昇となりました。また、次回調査期間の予想業況判断D Iは13.7→9.0と4.7ポイント低下する見込みとなっています(図表3-1)。

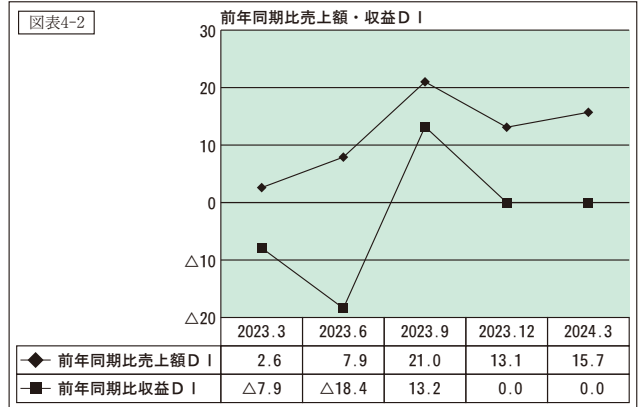
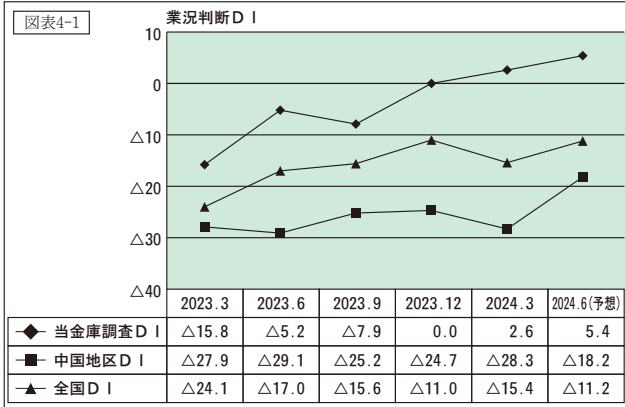
経営上の問題点としては「同業者間の競争の激化」の回答が最も多く、それに対応した「販路を広げる」、「情報を強化する」、「品揃えを充実する」を重点経営施策とする企業が多くなっています。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

経営上の問題点	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	同業者間の競争の激化	36.4%	売上の停滞・減少	27.3%	利幅の縮小	22.7%
当面の重点経営施策	販路を広げる	72.7%	経費を節減する	40.9%	情報を強化する	18.2%
					品揃えを充実する	18.2%
					人材を確保する	18.2%

小 売 業



景 況 ～今期上昇 次回調査期間も上昇の見込み～

今期の業況判断D Iは0.0→2.6と前回調査比**2.6ポイントの上昇**となりました。また、次回調査期間の予想業況判断D Iは2.6→5.4と**2.8ポイント上昇する見込み**となっています(図表4-1)。

経営上の問題点において、「同業者間の競争の激化」の回答が増加し最も多くなっています。「大型店との競争激化」と回答する企業も増加しており、顧客の奪い合いになっていることが考えられます。

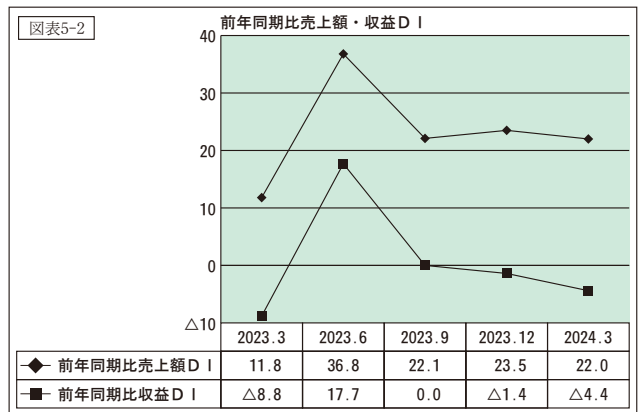
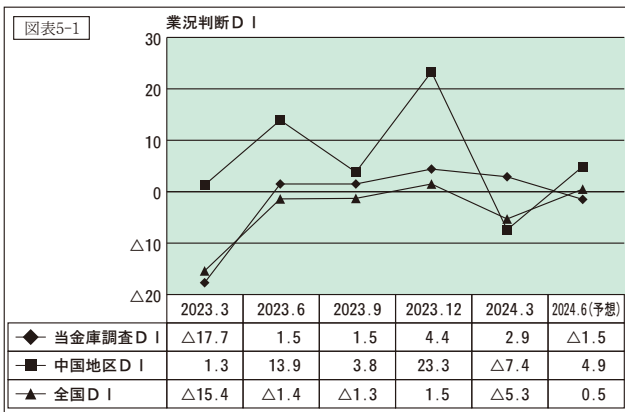
当面の重点経営施策では「販路を広げる」、「売れ筋商品を取扱う」の回答が増加しており、市場の拡大や競合先との差別化を目指す企業が多くなっています。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

経営上の問題点	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	同業者間の競争の激化	42.1%	売上の停滞・減少	34.2%	人手不足	18.4%
					大型店との競争激化	18.4%
					仕入先からの値上げ要請	18.4%
当面の重点経営施策	経費を節減する	44.7%	販路を広げる	36.8%	利幅の縮小	26.3%

サービ 業



景 況 ～今期低下 次回調査期間も低下の見込み～

今期の業況判断D Iは4.4→2.9と前回調査比**1.5ポイントの低下**となりました。また、次回調査期間の予想業況判断D Iは2.9→△1.5と**4.4ポイント低下する見込み**となっています(図表5-1)。

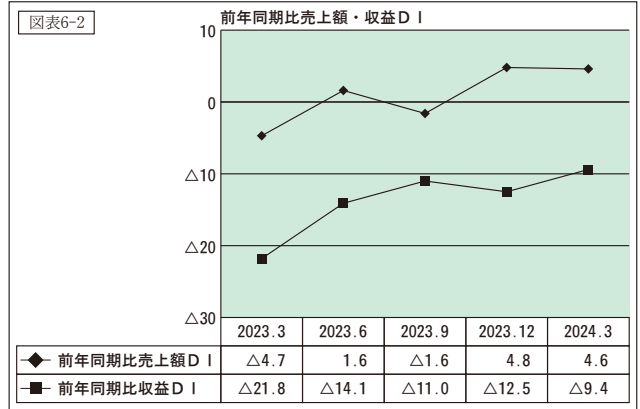
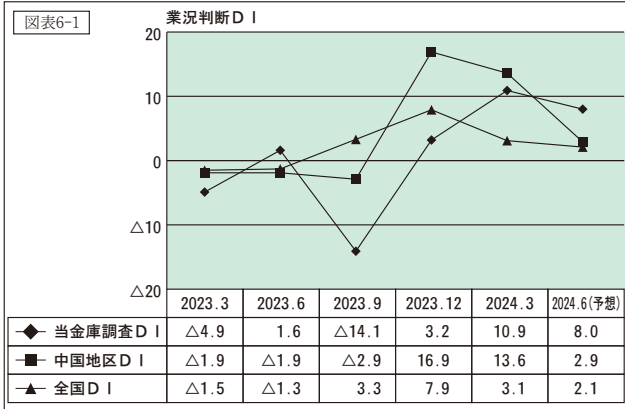
経営上の問題点として「人手不足」の回答が増加し最も多くなっています。当面の重点経営施策においても「人材を確保する」の回答が増加しています。人材確保に苦慮している企業が多いことが分かります。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

経営上の問題点	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	人手不足	39.7%	材料価格の上昇	30.9%	売上の停滞・減少	25.0%
					人手不足	39.7%
					材料価格の上昇	30.9%
当面の重点経営施策	経費を節減する	52.9%	人材を確保する	39.7%	販路を広げる	35.3%

建設業



景況 ～今期上昇 次回調査期間は低下の見込み～

今期の業況判断D Iは3.2→10.9と前回調査比**7.7ポイントの上昇**となりました。また、次回調査期間の予想業況判断D Iは10.9→8.0と**2.9ポイント低下する見込み**となっています（図表6-1）。

経営上の問題点として「材料価格の上昇」との回答が引き続き最も多くなっています。「同業者間の競争の激化」による「売上の停滞・減少」の回答も依然として多くなっています。

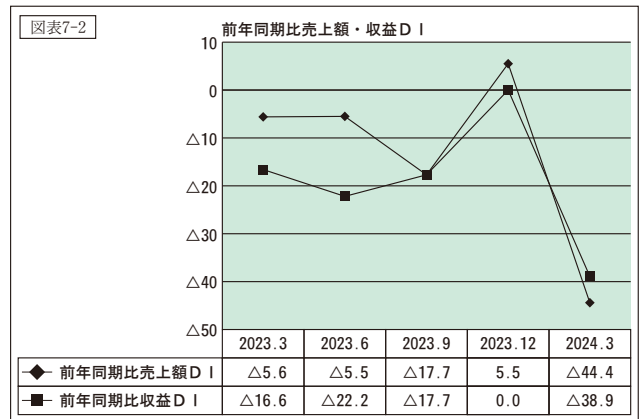
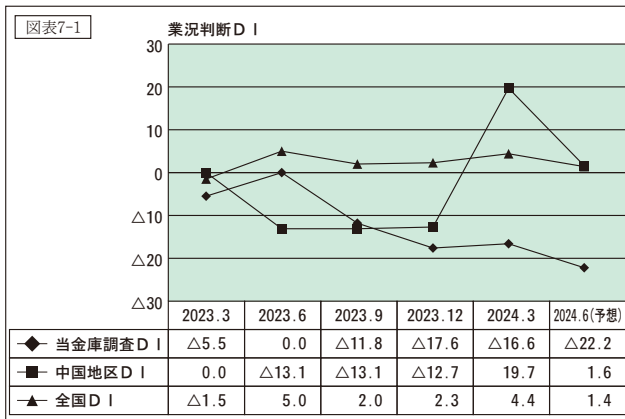
当面の重点経営施策としては利益確保のため「経費を節減する」と回答をする企業が増加し最も多くなっています。また「人材を確保する」の回答も増加しています。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

経営上の問題点	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	材料価格の上昇	57.8%	売上の停滞・減少	35.9%	同業者間の競争の激化	32.8%
当面の重点経営施策	経費を節減する	48.4%	販路を広げる	42.2%	人材を確保する	29.7%

不動産業



景況 ～今期上昇 次回調査期間は低下の見込み～

今期の業況判断D Iは△17.6→△16.6と前回調査比**1.0ポイントの上昇**となりました。また、次回調査期間の予想業況判断D Iは△16.6→△22.2と**5.6ポイント低下する見込み**となっています（図表7-1）。

経営上の問題点として「売上の停滞・減少」の回答が増加し、最も多くなっています。「商品物件の高騰」、「商品物件の不足」による「同業者間の競争の激化」も引き続き多い状況です。

重点経営施策として「情報力を強化する」との回答が最も多くなっています。また増収増益のため「販路を広げる」、「経費を節減する」との回答も増加しています。

経営上の問題点・当面の重点経営施策

※色付きは前回より回答率が上昇した項目(10ポイント以上上昇は濃)

経営上の問題点	1		2		3	
	回答内容	回答率	回答内容	回答率	回答内容	回答率
経営上の問題点	売上の停滞・減少	61.1%	商品物件の高騰 商品物件の不足	38.9% 38.9%	同業者間の競争の激化	33.3%
当面の重点経営施策	情報力を強化する	61.1%	販路を広げる	55.6%	経費を節減する	38.9%

調査先企業の声

製造業

- ・原材料高騰に伴い価格転嫁を実施。経費削減に努め利益確保を目指す。【プラスチック加工】
- ・ダイハツの不正問題の影響で一部部品生産がストップし受注減少。業界内での単価引下げ要請が続いており厳しい。【金属プレス加工】
- ・新卒、中途問わず人材採用を積極的におこなっているが定着率に伸び悩んでいる。福利厚生を充実させるなど改善に取り組む予定。【照明看板製作】

卸売業

- ・カタログ販売をおこなっているものについて、販売価格の随時変更ができないため仕入価格上昇分の利幅が縮小している。【土産物】
- ・従来の方法に加えSNSの有効活用により販路拡大を目指す方針。【包装資材】
- ・人材不足が続いている。人材定着に向け、賃金引上げを実施予定。【畜産物】

小売業

- ・大手スーパー、ドラッグストア等との競合が激しく売上苦戦している。【米・酒】
- ・販売価格も仕入価格も上昇し収益としては横ばい。同業他社の動きに合わせて価格については柔軟に対応している。【電化製品】
- ・ダイハツの販売代理店のため、不正問題で売上に大きく影響が出ている。【自動車】

サービス業

- ・法人客に対して値上げ対応ができたため、経費増加分はカバーできたが、これ以上の値上げは客離れの懸念が有るため慎重に対応する。【クリーニング】
- ・売上増、経費増となり収益は変わらず。人材定着のための労働条件の見直しに着手する。【タクシー】
- ・従前より介護士が不足している。人材確保が当面の課題。【訪問介護】

建設業

- ・地元優良企業をメインに取引先を確保しているが、現時点では材料費、人件費高騰分を価格転嫁できていない。【左官工事】
- ・物価高騰分については価格転嫁を実施。利益率も維持し、業況も順調。【一般住宅】
- ・人員を新たに確保。業況は順調に推移している。【電気工事】

不動産業

- ・売上停滞しているため宣伝広告を強化する方針。【不動産賃貸】
- ・不動産価格の高騰により仕入が進まず、商品在庫が不足している。【不動産仲介】
- ・商品物件が出回らず苦戦している。地価の上昇は多少落ち着いてきた印象。【不動産販売】

おかやましんきんビジネスローン 「夢応援団」のご案内

おかやま信用金庫では、法人のお客さま専用にあらゆる事業性資金にスピード対応できる商品を取扱いしております。ご利用に関するお問い合わせは、お取引いただいております当金庫営業部店または価値創造部までご連絡ください。

記

<商品の特徴>

- ・スピード審査（仮審査は、15:00までの受付は当日回答）
- ・担保不要
- ・信用保証協会対象外業種である農林水産業の法人もご利用可能
- ・「期限一括返済」が可能
- ・一定の条件を満たせば、創業資金への対応可能
- ・3段階の金利設定

<商品説明>

1. 商品名
おかやましんきんビジネスローン「夢応援団」（株式会社クレディセゾン保証付）
2. 対象者
以下の要件を全て満たし、株式会社クレディセゾンの保証が受けられる法人のお客様
 - ・原則として当金庫に口座を保有している業歴2年以上の法人
 - ※業歴2年未満でも、商工会議所や商工会などの創業支援組織に加盟し、当金庫が推薦する場合は可とします
 - ・信用保証協会対象業種であること。ただし、農林水産業も可とします
 - ・当金庫の営業区域内に本店または支店を置く法人
 - ・反社会的勢力に該当しない方
 - ・当金庫の会員であること
3. 資金用途
事業資金（借換も可）
4. 融資限度額
10万円以上500万円以下（1万円単位）、ただし業歴2年未満の場合は200万円を上限とします
5. 融資期間
6ヵ月以上10年以内（業歴2年未満の場合は5年以内）
※期日一括返済の場合は最長1年以内
6. 返済方法
毎月5千円以上の元金均等返済、または、期日一括返済（毎月利払い、最終期限に元金一括返済）
7. 融資利率（保証料込み）
固定金利
 - ・パターン1／年4.00% ・パターン2／年7.00% ・パターン3／年11.00%※金利については、審査のうえで決定させていただきます
8. 担保
不要
9. 連帯保証人
法人代表者様（実質的支配者であり、申込時年齢が20歳以上の方）
10. 保証会社
株式会社クレディセゾン

以 上

調査の要領

- 1) 調査時点 2024年3月1日～7日
- 2) 調査対象期間 2024年1月～3月
- 3) 調査対象 250企業（有効回答数250企業・回答率100.0%）
- 4) 調査方法 おかやま信用金庫各営業部店の職員による聞き取り調査
- 5) 分析方法 各質問事項で「良い」（上昇）とした企業が全体に占める構成比と、「悪い」（低下）とした企業の構成比との差（判断D I）を中心に分析
※D I＝ディフュージョン・インデックスの略
一般にプラスは好調、マイナスは不調を示す（仕入価格D Iについては逆）
- 6) その他 全国D Iならびに中国地区D Iは、全国の信用金庫が中小企業約16,000先を対象として調査し、信金中央金庫が取りまとめた数値を使用

回答率

（単位：先、%）

	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業
回答企業数	40	22	38	68	64	18
回答率	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

従業員数

（単位：先）

業種 (単位：人)	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	計	構成比
0～9	21	14	32	47	49	17	180	72.0%
10～19	5	3	2	8	11	1	30	12.0%
20～29	6	4	2	3	3	0	18	7.2%
30～49	3	0	2	5	1	0	11	4.4%
50以上	5	1	0	5	0	0	11	4.4%
計	40	22	38	68	64	18	250	100.0%
構成比	16.0%	8.8%	15.2%	27.2%	25.6%	7.2%	100.0%	

資本金

（単位：先）

業種 (単位：千円)	製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	計	構成比
10,000未満	20	7	24	37	34	8	130	52.0%
10,000～49,999	17	15	13	28	30	10	113	45.2%
50,000～99,999	3	0	1	2	0	0	6	2.4%
100,000以上	0	0	0	1	0	0	1	0.4%
計	40	22	38	68	64	18	250	100.0%
構成比	16.0%	8.8%	15.2%	27.2%	25.6%	7.2%	100.0%	

編集後記

今回調査期間における全業種総合の業況判断D Iは前回調査比で2.0ポイント上昇し6.8となりました。6業種中5業種において業況判断D Iがプラスとなっており、全体的に景況感が高めで推移しています。物価高騰、人材不足を課題にあげる企業が多くなっており、次回調査以降も業況推移を注視する必要があります。おかやま信用金庫では引き続き、地元岡山の中小企業の皆様の実情をしっかりと把握したうえで、迅速で最適な支援をおこない地域経済を支えてまいります。



おかやま信用金庫
価値創造部

— 2024.6 —

〒700-8639 岡山市北区柳町1丁目11番21号
TEL:フリーダイヤル 0120-173-299(ガイダンス番号5)
FAX:086-226-2288
<http://www.shinkin.co.jp/okayama/>
e-mail:sien@okayama.shinkin.jp